

英・数・国の苦手克服 先輩の“処方箋”

苦手科目

英語

苦手度 75%



大阪市立大学

法学部 法学科1年

柊 琉衣さん

(2021年 大阪府立東住吉高校卒)

通塾の有無：無し

この
苦手克服の
ポイント!

少し易しめの英文を読み 音声を聞きながら音読する

苦手の理由

特にリスニングが苦手でした。原因は、受験勉強を始めるまで、リスニングに触れる機会が少なかったからです。高3になり、いざ共通テスト模試を受けると、ほとんど何も聞き取れず、点数もボロボロでした。そこからリスニングに対して苦手意識を持つようになりました。

特に苦手だったのが大問5で、まったく聞き取れずに、1点も取れないこともありました。共通テスト模試で1番足を引っ張っていたのは、この部分だと思えます。

主な対策法

4~7月 1日平均 0.5h

この時期はまだ英文を聞くことに慣れていなかったため、「300字程度の英文の問題を解く→英文のスク립トを見る→音声を聞きながら発音する」という流れの学習を、1つの英文につき、最低でも20回は繰り返しました。

夏休み 1日平均 1h

この時期は音読にも慣れてきていたので、読む英文の長さを少し長くしました。学校のテキストを教材に、1つの英文を20回以上音読し、英文を見なくても音読できるようになったら、シャドーイングをしました。

シャドーイングは難しいので、高校の先生のアドバイスを受けながら、同じ英文で何度も繰り返し行いました。

秋以降 1日平均 1.5h

音読とシャドーイングを継続して行いました。もっと勉強時間を増やしたかったのですが、他の科目の勉強時間も確保しないといけなかったため、朝の身支度を整える際や、通学などのスキマ時間に、スマホに入れた音声を聴くようにしました。

また、学校のリスニング講習も受け、速読力をつけました。

対策の成果

まず、英文を聞き取れる量が格段に増えました。「自分で発音できないものは聞き取れない」とよく言いますが、まさにその通りです。自分が英文をスラスラと読めるようになるにつれて、だんだんと英語が聞き取れるようになっていきました。

英語が聞き取れるようになると、全体に意識を配ることができるので、問題を解く余裕もできました。また、共通テスト模試でも最初は50%を切っていた得点率が、最後には75%を取れるようになりました。試験本番でも80%を取ることができ、無事にボーダー点数を超えることができました。

▶ 苦手科目: それ以外の科目の学習配分



苦手科目の取り組み方 アドバイス!

苦手科目は、はじめはできる範囲からコツコツと勉強することをおすすめします。慣れてきたら、問題の難しさを上げたり、苦手科目に費やす時間を増やしたりして、勉強の濃さを段々と上げていってください。私はそうすることで、苦手意識を薄めていきました。

また、「苦手科目の得点は、他の科目の足を引っ張らない程度で良い」と、低めに目標設定することで、それほど緊張せずに本番の問題を解くことができました。最初は苦痛だと思いますが、苦手科目と向き合うことこそ合格への大きな一歩につながります。頑張ってください!

共通テスト 英語 解いた感想!

難易度は、共通テスト模試より低めに感じましたが、模試の形式に慣れ過ぎている人には、少し戸惑う問題だったと思います。リスニング対策をしていた共通テスト模試では必ず出題されていた形式の問題が、本番では少し変わって出題されていました。例えば「英文のストーリーを聞いてその通りにイラストを並び替える問題」が、「グラフの項目を埋める問題」になっていました。「次はこの形式の問題がくる」という意

識があったので、少し焦りました。

解答のコツは、問題をどんどん先読みしておくことです。「だいたいどんな文章が読まれるか」など、問題から少しの雰囲気をつかむだけで格段に正答率が上がります。もし解けずに過ぎてしまった問題があったとしても、落ち込まずに、次の問題に意識を回しましょう。

私も、この前例のない新入試制度は不安でした。1番苦手だったリスニングの配点が高くなることや、共通テスト模試のレベルとどれくらい変わってくるのかという点に特に不安を感じていました。本番は少し戸惑ってしまいましたが、模試と若干違った出題の仕方をしている問題もあるので、「模試はあくまで模試である」と考えていたほうが良いかもしれません。

苦手科目克服の“処方箋”

- リスニングで何をすればよいかわからないときは音読をすべし!
- 苦手科目は「足を引っ張らない程度に」くらいの気持ちで!
- 成果は必ず出るからそれまではコツコツと勉強を続けましょう!

↓最低だった偏差値

50

[高3・4月]

↑最高だった偏差値

60

[高3・11月]